

運転支援研修会

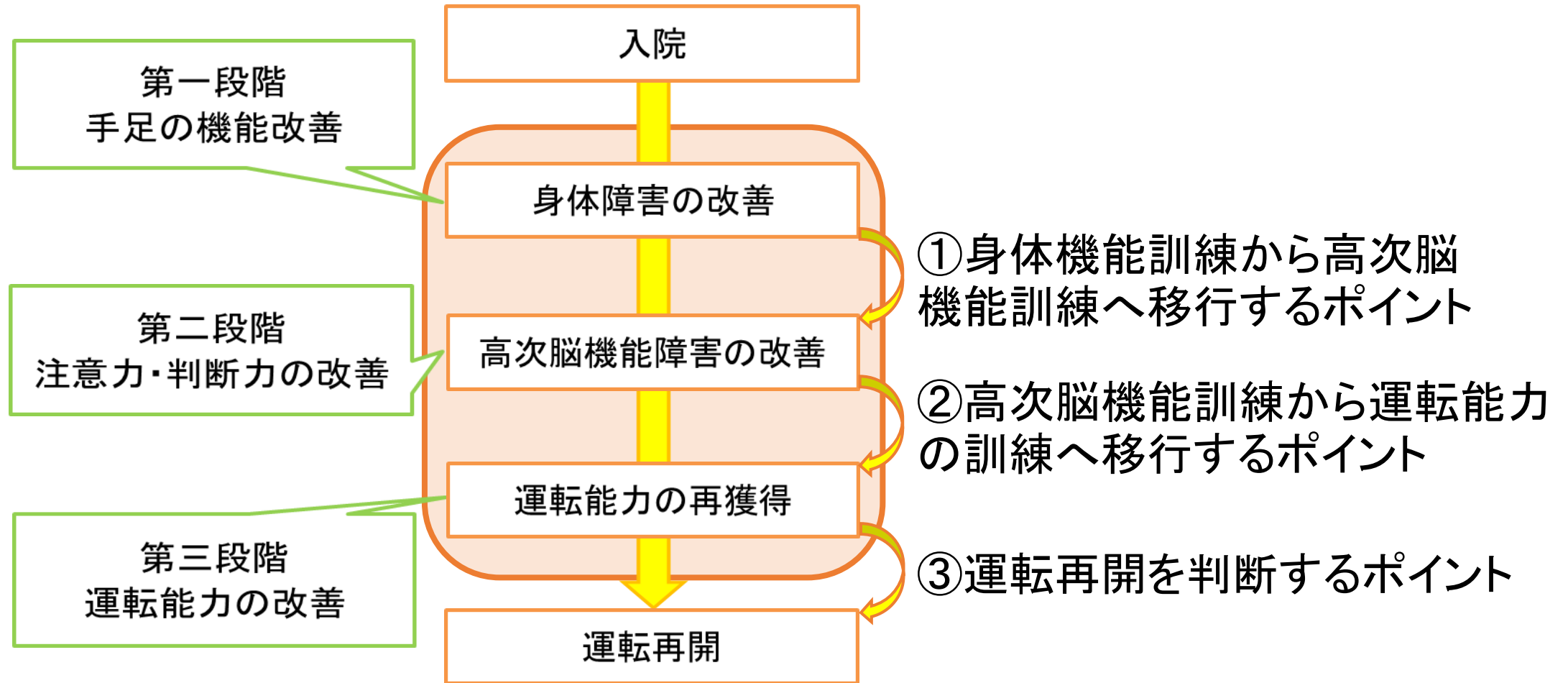
～高次脳機能障害に対する取り組み～

2023.8.19 桔梗ヶ原病院 言語聴覚士 佐藤理恵

はじめに

- 現在、高次脳機能障害者に対する運転リハビリテーションの方法は確立されていません。
- 今回、当院の運転チームが中心となって行っている高次脳機能障害に対するアプローチ方法をご紹介します。

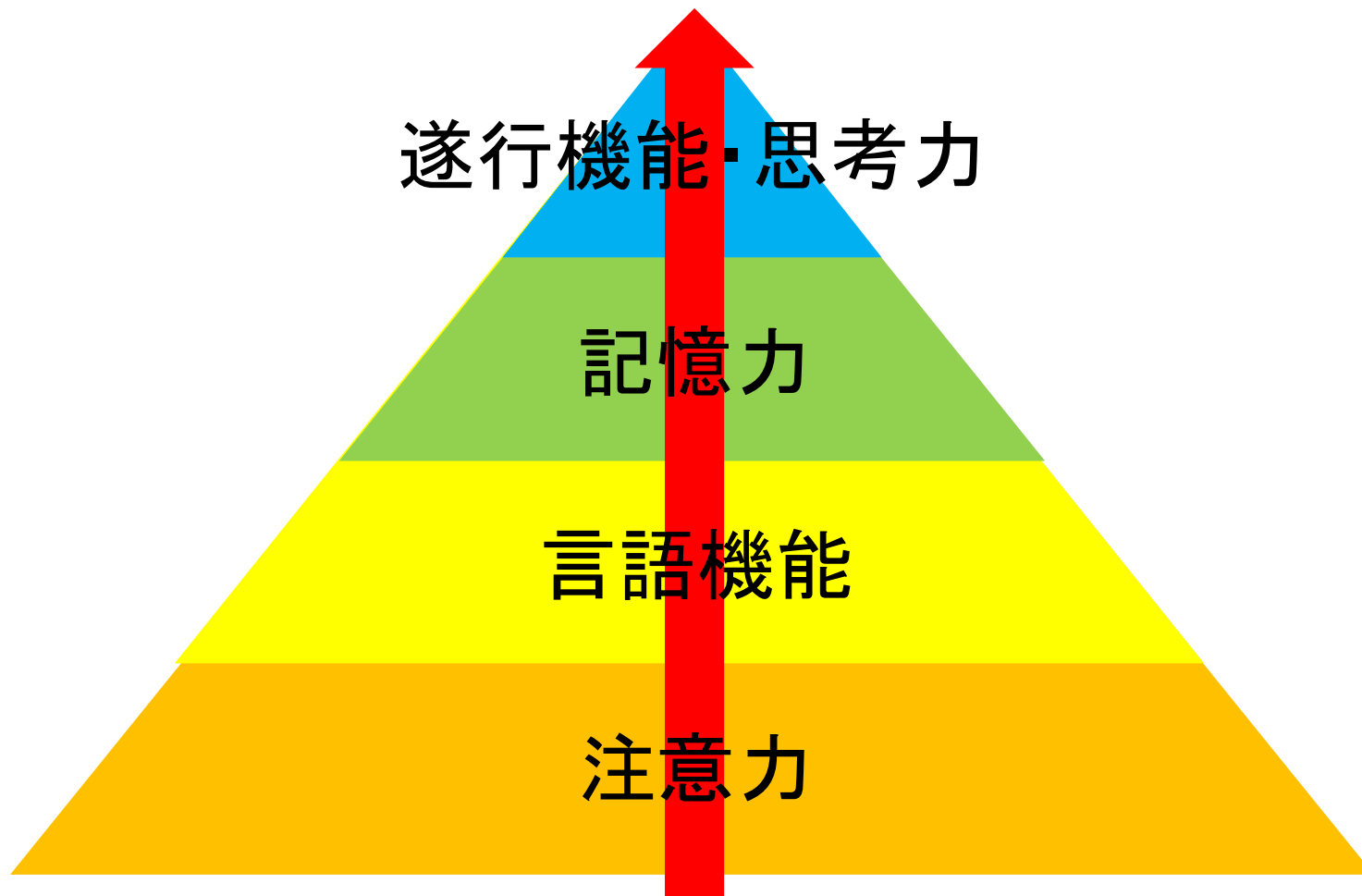
当院における段階的な運転リハビリテーション



①身体機能訓練から高次脳機能訓練へ移行するポイント

- 生活動作が自立しており、家での生活が可能かどうか？
- 屋外での移動が自立しており、車までの移動が可能かどうか？
- 車の乗り降りが自立しているかどうか？

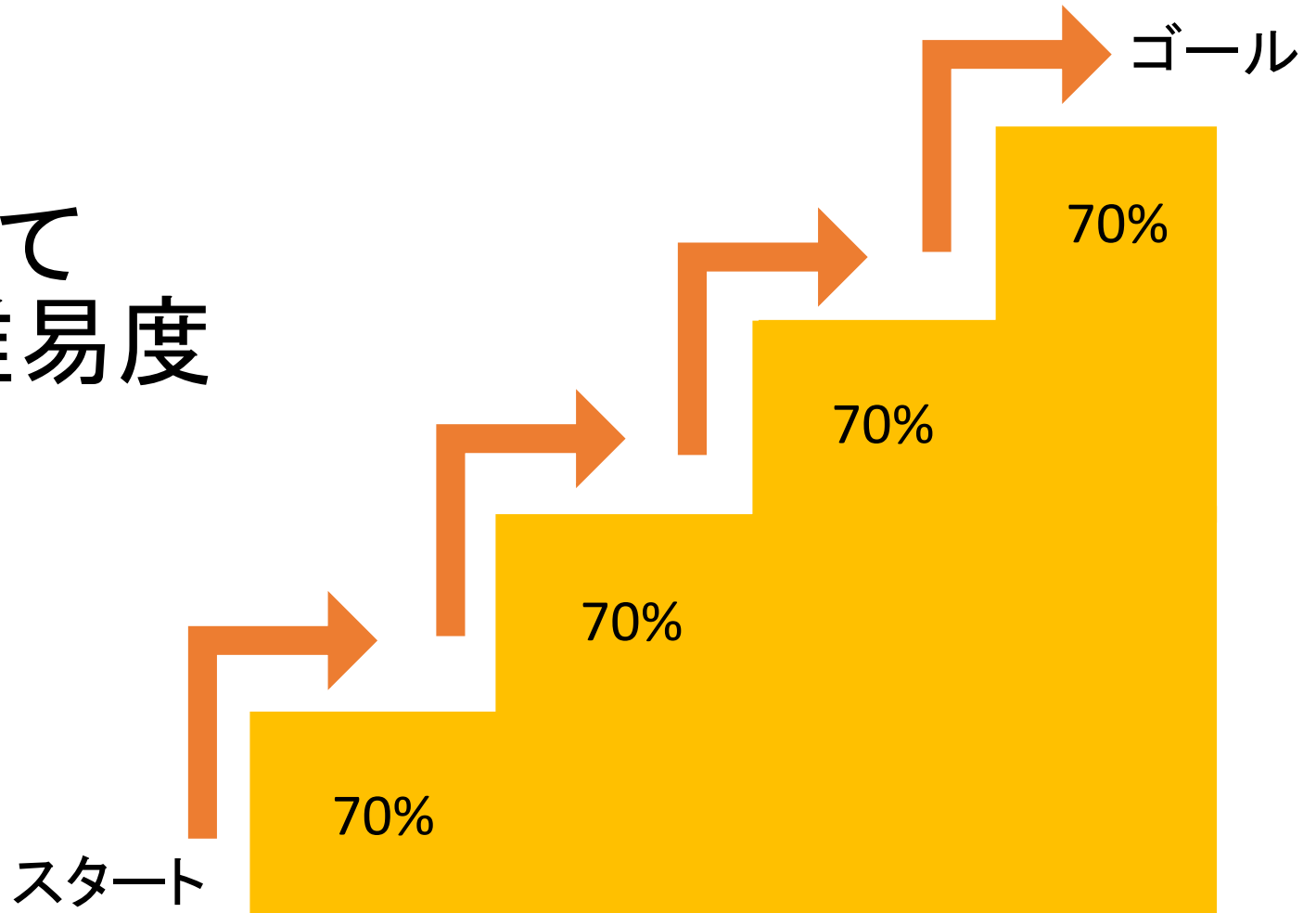
セラピストによる段階的な機能訓練



下から上の階層に向かい段階的に訓練を行っている。

課題の難易度設定

- 患者様にとって70%程度の難易度からスタート



セラピスト毎の役割

①

身体機能訓練

高次脳機能訓練

PT

OT

ST

・コグニサイズ
・心理面ケア

・机上課題や道具使用
・主に視覚性・動作性課題

・主に机上課題使用
・主に聴覚性・言語性課題

コグニサイズとは？

- 国立長寿医療研究センターが作り出した造語。

「コグニ」=コグニション（認知）

+

「サイズ」=エクササイズ（運動）

↓

「コグニサイズ」

- 認知課題と運動課題を両方同時に行うことによって、心身の機能を効率よく上げていくプログラム。

臨床場面で困る症状と対策

- 病識低下

→焦って病識を付けようしない。ゴールを明確にして、患者様と共有する。

- 意欲低下・感情コントロール不良

→医師と相談し、薬剤を用いて、まずは集中して取り組める環境を整える。

【当院で使用している薬剤】サアミオン、シンメトレル、トレドミン、パキシル、リフレックス、半夏厚朴湯、抑肝散、抑肝散加陳皮半夏

自主トレーニング

<導入するタイミング>

- 患者様のモチベーションが上がってきた時
- 集中して課題に取り組めるようになった時
- 患者様が自力で100%解ける課題がある時

<内容>

- 課題の難易度: 100%自力で実施できるもの
- 課題の種類: 机上課題(プリント)が中心
- 課題の量・頻度: 毎日1~2枚程度(患者様と相談)

②高次脳機能訓練から運転能力の訓練へ移行するポイント

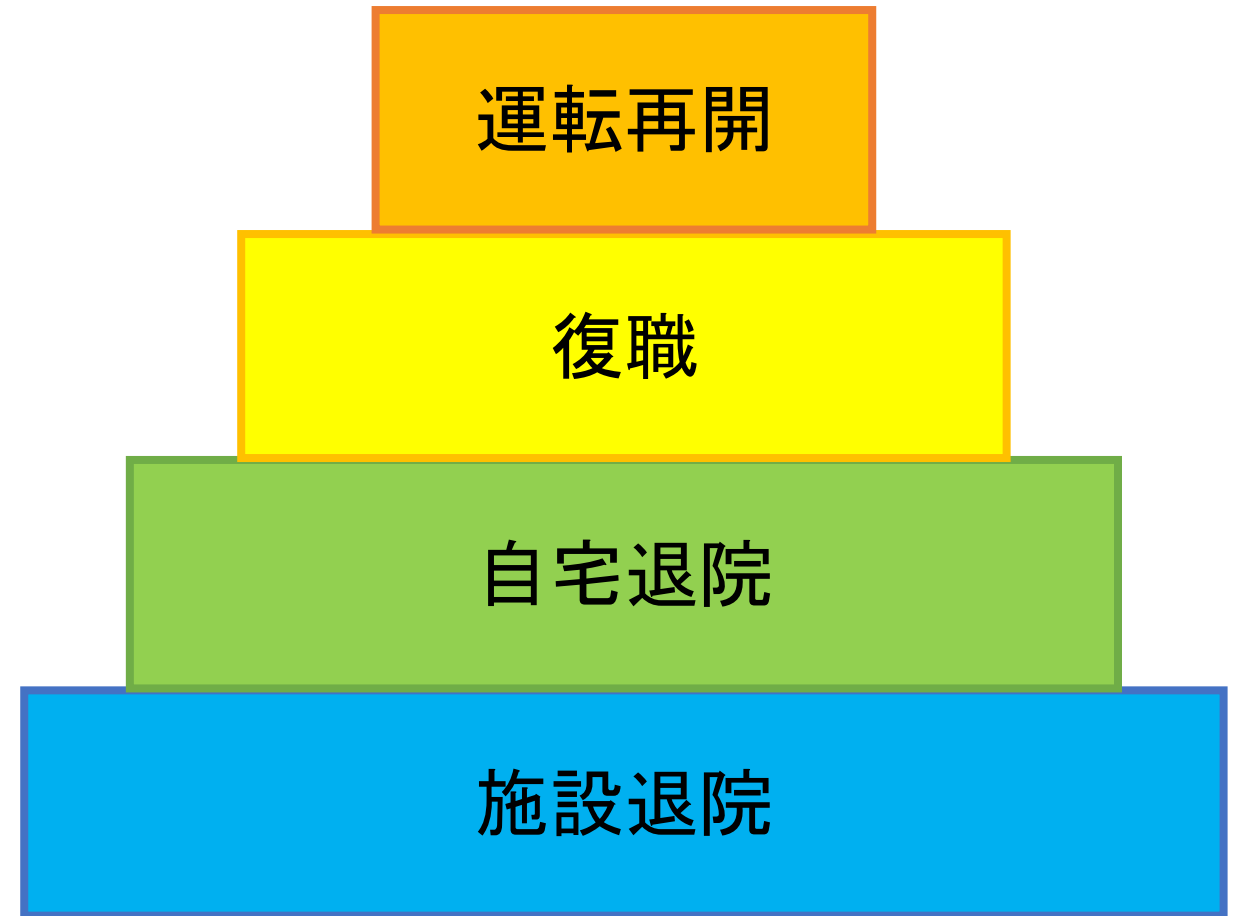
- 神経心理学的検査において概ね年齢平均値や基準値に到達している。
- 日常生活上で高次脳機能障害の影響がほぼみられない。
- 時間管理やスケジュール管理、内服管理が概ね可能。

③ 運転再開を判断するポイント(当院の場合)

- 運転機器の操作が可能
- 救護義務が果たせる
- 目視による安全確認、危険場面の予測、徐行・一時停止ができる
- 感情に左右されず運転可能

運転再開を目指すということ

- 運転再開は、最上級の難易度の目標と思われる。
- 現行の法律では、一人で運転する事が前提となっている。
- 他者支援を受ける事が難しい。



まとめ

- 運転再開は最上級の難易度の目標です。
- 訓練を進める上で、ゴールに着実に近づいているのかどうか、また逆算して期限内に間に合うのかどうか、常に判断する視点が必要になってくると思われます。